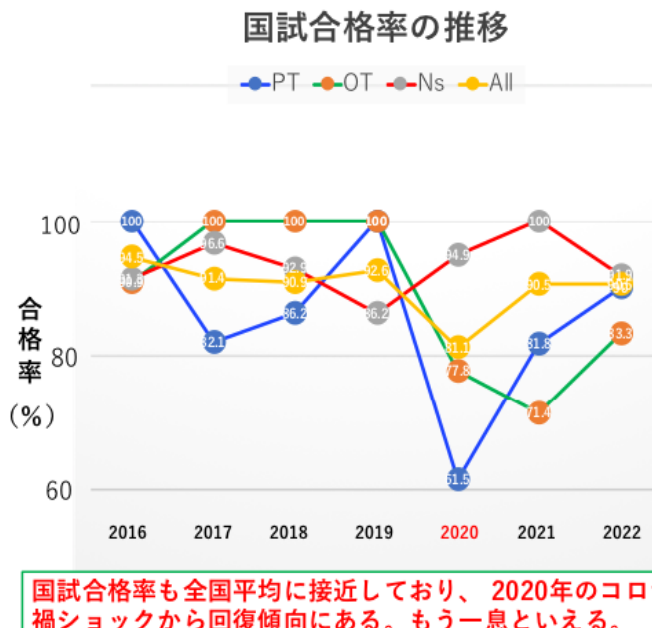
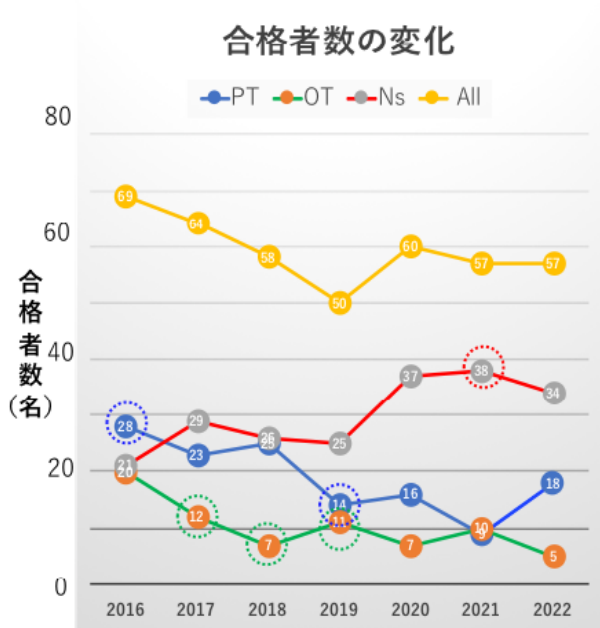


国試合格率の推移



国試合格率も全国平均に接近しており、2020年のコロナ禍ショックから回復傾向にある。もう一息といえる。

理学療法学科

2020年度のコロナ禍での受験では、かつてのマンツーマン学習より感染症対策を強化した学びを実施しました。これは当日を含めて1週間ほどの間にコロナ感染があると受験できなくなるため、グループ学習を避け、個人で勉強を続けるという対応を続けておりました。

しかし、その対応がかえって仇となってしまいました。私たちはこれをコロナショックと呼びますが、コロナ禍での学習指導のノウハウを身につけてきたその後3年間では、以前のような状況に戻りつつあるところが明るい材料と捉えています。

作業療法学科

2020年と2021年の2年間、コロナショックが続いてしまい、大きな痛手となりました。しかし、2022年度はグラフで見ると、かつての常勝軍団に戻りつつある傾向が明らかになってきました。ただ、2年間のコロナショックは、実際に同学科で感染者が出てしまったため、国試受験生にその影響が波及しないようにという配慮が働き、合格率の低下に繋がってしまったのです。

これらの反省点を活かし、2022年度はなんとか復調に向かうことができましたが、さらに、かつての王国復活（100%合格）に向けて教員一同全力をあげたいと考えております。

看護学科

看護学科では、臨地実習が相次いでキャンセルとなりましたので、学内代替実習を進めながら受験対策も同時に進める戦略をたてることができました。そのため、実習で落伍する学生も少なくなり、全員で受験勉強に取り組み、新たな試みを始めることができました。コロナ禍が必ずしもコロナショックとはならず、むしろ受験対策を頑張り続けられたことは幸いでした。

2020～2022年度はそれまでの数年と比較して国試受験生数が増えたにも関わらず、合格率をより高いレベルに維持できたのは学生達の大きな励みとなっています。